＜第 4067 回＞
目的地：巻機山（新潟）
担当者：谷口秀子
実施日：2020 年 9 月 24 日(木)～27 日(日)
形　式：民宿泊山行
費　用：¥44,000.-
参加者：7 名
岩谷多恵子・江口晶子・柴﨑美登里・白神智・杉江正史・脇門律子・谷口秀子

行　程：
9 月 24 日　天気：雨
大阪駅前（桜橋口）(22:10)⇒京都駅八条口(23:20)⇒
9 月 25 日　天気：曇り/雨
⇒(6:06)柏崎駅(6:58)⇒(7:30)犀潟駅(7:40)⇒（8：32）六日町（8：45）⇒（9：07）越後湯沢（レンタカー：9：30）⇒【観光：清津峡渓谷⇒魚沼の里】⇒高半【泊】
9 月 26 日　天気：雨
高半(4:35)⇒（5：20）桜坂駐車場（5：40）→（6：49）5 合目→（7：47）6 合目→（9：39）ニセ巻機山→（10：02）巻機山避難小屋→（10：47）御機屋→（10：58）巻機山→（11：21）御機屋→（11：50）巻機山避難小屋→（12：09）ニセ巻機山→（13：39）6 合目→（14：22）五合目→（15：21）桜坂駐車場⇒雲天【泊】
9 月 27 日　天気：曇り/晴れ
雲天⇒越後湯沢（レンタカー返却）（9：14）⇒（10：32）上越妙高（10：45）⇒（11：49）金沢（12：14）⇒（15：05）大阪
感　想：
　柏崎へ向かうバスの中、早朝カーテンを開けると雨はまだ降っておらず日本海が広がっていました。車窓から見える景色は線路と海との距離感がものすごく近くて、なんとも言えない爽快な気分でした。
　湯沢に着くと、一足先に現地入りしていた杉江さんが陽気に出迎えてくれました。待っていてくれる人がいるというのはなぜか嬉しい。レンタカーを借り最初に向かった場所は、日本三大渓谷の一つ清津峡。新潟に来たら行きたいなあと思っていた場所の一つ。長いトンネルを抜けると・・・180 度ステンレス板に覆われた場所に水面が反転して映す渓谷は風景と一体化していて、色づく紅葉や雪降る季節は素敵なんだろうなと思いました。その後、八海醸造のある魚沼の里へ。車を走らせながら、自分にとってはちょっぴり馴染みのある景色を懐かしみながら色々なことを回想していました。いくつかの施設が点在していて、私たちは従業員が食事をする場所で一般客にも開放されている食堂で昼食。窓から見える秋色の田園風景が優しくて、味付けも美味しく毎日利用出来たら休憩時間がリラックスできそうな空間でした。その後、マイナス 5 度の雪室を見学し醸造施設で作るお酒を試飲。雨の効果で木々の緑がより一層映え、無駄のないスッキリとした建物が自然とその場所に溶け込み、いい雰囲気でした。
　地元スーパーで夕飯と翌日の買出しを済ませ、宿へ到着。急遽テント泊からホテルに切り替えた宿は、文豪川端康成が「雪国」を執筆したお部屋がどうしても見たくて選んだ場所だったのに、なぜか閲覧時間があることをすっかり忘れていて見逃してしまい、後からひどく後悔をしました。
　翌朝 4 時半にも関わらず宿の方に見送られ、清水へと向かう。まだ外は真っ暗で雨が降っていました。駐車場に着くと谷川岳でお会いした懐かしい方と数年ぶりに再会。お会いするまで少し緊張しましたが、お顔を見て挨拶をしたら以前と全然変わらないお姿で一気に距離が縮まりました。まさか今回お会いできると思っていなかったので、個人的には嬉しい再会でした。
　小雨が降ったりやんだりしてガスが白く立ちこめ、粘土質の登山道は何度も泥と格闘しながらひたすら登りが続きます。参加された皆さんはきっとがっかりだったと思う。歩いているとどこからか法螺貝の音が聞こえてきました。もしかして山伏さん？何度かすれ違う度に挨拶を交わしたり質問をしたりしているうちに優しい表情を向けてくださるようになりました。
　避難小屋へ着くと、地元有志の方が小屋の清掃をされていました。２階建ての小屋はとてもきれいで、大切に管理されているのが伝わってくるようでした。小屋周辺から山頂付近にかけてオレンジ色に衣替えをした草紅葉を見ることができました。ここから先は晴れていれば巻機山の魅力がたくさん詰まっているに違いなかったのですが、今回は残念ながら願いが届きませんでした。やっとの思いで下山し、泥だらけの靴やレインウエアーを洗い場で必死に落としました。
　疲れ切った体と心を癒してくれたのが「雲天」でした。巻機山と並んで楽しみにしていたお宿。いくつか探して、「ここに行きたい！」と直感が働いた場所。思い描いていた以上に実物は立派な佇まいで正直びっくりしました。玄関に入ると正面に囲炉裏のお部屋があり竹串に刺した岩魚が焼かれていてほのかにいい香りがしました。なんとも言えない雰囲気で、建物の内装が素晴らしく、高い天井の広間・隅々まで磨かれた清潔なお部屋・食べきれないほどの山の幸をふんだんに使った美味しい手料理・ご夫婦のおもてなし、そし

て今もなお雲天が堂々と存在する歴史（白神さんが貴重な資料を発見しました！）に触れ、全てに魅了されました。食卓に並べられた一品一品どれも美味しくて、これ以上食べたくても食べられないくらいお腹いっぱいに満たされました。素材のきのこや山菜などご主人に写真を見せていただきました。ご主人からは、サービスで八海山のお酒を頂戴しました。

夕食後、軒下で花火をしました。私の中で新潟と言えば、花火だろう・・・と。季節外れの花火の気もしましたが、どうしてもみんなでやりたくて持参。大変だった山行もやっと終え、一番ほっとした夜を迎えられた気がしました。

翌朝帰りの電車の都合で早くに宿をでなくてはいけなかった私たちは、無理を言って７時に朝食を取るお願いをしました。ご主人は猟友会の一員で早朝出かけなければいけないので奥さんが一人で準備しなくてはならず、大変ご迷惑をおかけしてしまいました。朝６時過ぎに奥さんが来て、「ゆっくり食べていってほしいから」と 30 分も早く朝食の準備をしてくださいました。朝食のメニューもどれも美味しくて、心のこもった温かい食卓でした。出発前にはご主人も戻ってこられお会いすることができました。みんなで購入した巻機山のＴシャツをきてご主人と奥さんにも入っていただき一緒に記念撮影をしました。最後車に乗る私たちを見えなくなるまで手を振ってお見送りしてくださいました。雲天とのご縁を大切に、また利用させていただきたいと思います。次回も、新しい出会いと今度こそお天気に恵まれますように。